

東京都心部における難工事への取組み 2 件が全建賞を受賞しました
 ～多岐にわたる関係者と調整した点や施工効率化を実現した点が評価されました～

令和 6 年 6 月 26 日に発表された「令和 5 年度全建賞」のインフラの部で、独立行政法人都市再生機構（以下「UR 都市機構」）の「駅・まち一体」地下鉄日比谷線新駅整備事業」と「品川駅北周辺地区下水道幹線移設並びに歩行者通路切替え（第 1 段階完了）」の 2 件が受賞しました。

「全建賞」は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられた賞で、昭和 28 年の創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や国民ニーズに沿った幾多の取組みが表彰されてきました。

令和 5 年度全建賞受賞事業 2 件

- 受賞部門 : インフラ整備の事業又は施策の部（インフラの部） 一般枠^{※1} 都市部門
- 受賞事業名 : ①「駅・まち一体」地下鉄日比谷線新駅整備事業
 ～虎ノ門ヒルズ駅の一部完成による本格開業～
- ② 品川駅北周辺地区下水道幹線移設並びに歩行者通路切替え（第 1 段階完了）
 ～新たな幹線道路整備に向けた官民連携による基盤整備マネジメントの取組み～

※ 1 : 災害復旧・復興以外の事業又は施策

＜受賞式の様子＞

今回、地下鉄日比谷線新駅整備事業については、地下鉄の営業線下かつ国道 1 号直下という非常に厳しい施工制約条件のもと、新駅を段階的に整備した点や、隣接する再開発ビルをはじめとした多岐にわたる関係者との調整を経て、駅とまちが一体となった「拠点インフラ」として完成した点が評価されました。

また、品川駅北周辺地区土地区画整理事業については、関係機関協議を重ね、地域の冠水リスク解消のために先行移設して不用となった下水道幹線を工事中の仮設歩行者通路として活用した点や、新規で鉄道用地を横断する施設を築造するより大幅なコスト縮減を図り、施工効率化を実現した点が評価されました。

今後も、このようなまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。



【本件に関するお問合せ先】

UR 都市機構 本社

都市基盤調整室 関連公共施設課

（電話）045-650-0709

技術監理部 技術統括課

（電話）045-650-0378

広報室 広報課

（電話）045-650-0887

<完成した虎ノ門ヒルズ駅>



<駅ホームから見た駅広場空間>



■受賞事業の概要

①「駅・まち一体」地下鉄日比谷線新駅整備事業

営業線である地下鉄日比谷線で、56年ぶり22番目の新駅として虎ノ門ヒルズ駅を整備しました。令和2年6月に地下1階のホーム階のみで暫定開業し、その後、令和5年7月に、地下1・2階の一部を完成させ、地下2階の駅のコンコースと再開発ビル2棟との接続により、「駅・まち一体」の駅として本格開業しました。駅が再開発ビル内に整備された駅広場と接続したことで、駅とまちとが一体となった空間が整備され、これにより、まちの「拠点インフラ」を形成しました。

なお、地下鉄日比谷線新駅整備事業は、土木学会賞<技術賞IIグループ>、日本都市計画学会賞<計画設計賞>も受賞しております。

② 品川駅北周辺地区下水道幹線移設並びに歩行者通路切替え

(第1段階完了)

品川駅北周辺地区は大規模な鉄道車両基地が存在し、港区内の東西の移動交流が分断されていることが大きな課題でした。加えて標高が低く従前の下水道施設が脆弱なため、豪雨の際は度々冠水し、その度に地域の生活道路は通行止めを余儀なくされる状況でした。

UR都市機構は、東西を繋ぐ地区幹線道路整備に向けて、鉄道営業線直下で難工事となる下水道幹線移設や既存インフラ空間を活用した仮設歩行者通路の整備といった、同時に進捗する複数工事の合意形成を図りながら、地域の課題解決に資する取組みを推進しました。

■関連リンク

虎ノ門ヒルズ駅拡張工事完成記者発表

https://www.ur-net.go.jp/toshisaisei/press/jni4dd000005fkr-att/20230621_toranomon_ur.pdf

品川駅周辺の土地区画整理事業

<https://www.ur-net.go.jp/produce/case/case037.html>

UR都市機構が取り組む都市再生事業

<https://www.ur-net.go.jp/produce/index.html>

全建賞 HP

<http://www.zenken.com/hypusyou/hyousyou.html#zenkensyou>

<仮設歩行者通路整備前後の状況>

【整備前】 通称：お化けトンネル



暗く狭い地区内唯一の生活道路

【整備後】



既存インフラ空間を活用

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



UR都市機構は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。